

出展申込が急増!

NEWS DIGEST

食品産業の複合展 FOOD展2025

本年10月15日(水)から17日(金)の3日間、東京ビッグサイトにて開催される食品産業の複合展「FOOD展2025」【近況】1月の出展募集開始から、新規出展や増スペースでの問い合わせが相次ぎ、前回規模を上回る見込み。公式申込締切を5月末に控え、事務局には引き続き、出展に関する問い合わせや申込みが急増している。

2025秋、東京ビッグサイト 東3ホール(4・5・6)で開催

FOOD展はテーマを絞った専門展で構成される『複合展』として認知度を高めてきた。先のコロナ禍では多くの産業と同様に大きな打撃を受け、本展を儀なくされた。その後、コロナ禍明けで展示会は活気を取り戻す。対面で顔を合わせる機会や、販促・PRの場として、リアルで開催する展示会の価値が再認識された。

今年に入り、展示会を活用した営業活動がさらに活発化。多くの展示会に再び注目が集ってきた。会場や時期によって来場者層が少しずつ変化する展示会

においては、規模だけでなくタタミングやテーマ性も重要だ。コロナ禍明けの数年間で、各社の営業担当はそれを肌で実感したという。新たな販路開拓には複数の展示会に出ることも重要だと判断され、検討参加企業が増加している。

なかでも食品産業向けのPR機会として、「秋口」「東京開催」の展示会を探している企業は多い。本展もその追い風に乗る例年以上に出展者が集まっている。秋を来期の販促活動に弾みをつける最後のチャンスと捉え、各社が出展申込に向け、社内調整を進めている。

5展横断企画 FOOD-DX 好調なスタートダッシュ 多彩な顔ぶれに注目

食品に限らず様々な業界で喫緊の課題は「人手不足」「業務効率化」だ。依然として食品業界は「デジタルシフト」が思うように進んでいない業界の一つ。いっぽう、食品産業へ参入の足掛かりにFOOD展へ出展する企業が年々増加している点に着目。今年のFOOD展の一大企画として、構成する5展を横断する「FOOD-DX」を新設。FOOD展来場者へ、多種多様なDXソリューションを提案する。

詳細は裏面へ。▶▶▶▶▶

TOPIC! 東京ビッグサイト 大規模改修計画 その影響とは

FOOD展2025の会場となる『東京ビッグサイト』は設備の更新や機能向上を図るため、段階的な大規模改修工事を進行中。今年7月からは東展示棟(1~3ホール)の部分休館を予定しており、一体感を伴う大規模展の開催は困難な状況とも。この期間に東ホール開催が確約されるFOOD展は大きなアドバンテージを得ている。



出展者目線では展示会開催には「東ホール」という声が圧倒的に多く聞かれることは事実だ。



実行委員会のリニューアルにより出展者が軒並み復活

学校給食関係者の 来場誘致強化に期待

2005年から着実に開催を続けてきた「F-SYS」は開催20年目の節目に「F-SYS」は開催20年目の節目に元文科科学省 学校給食調査官 田中延子氏の新任実行委員長就任が決定。そのニュースは業界にまたたく間に浸透した。田中新実行委員長就任の一報を受け、まず動いたのが大手厨房メーカーの中西製作所だ。昨年同様に、出展を見送る予定が一転、復活の意思を早々に表明。過去最大規模となる展示スペースで出展準備を進めている。AIHO、タニコ、日本調理機といった実行委員メーカーも小間数の最終調整を急ぐなど、主要企業の意気込みは例年以上といえる。同時にコメントカットや三信化工をはじめとした常連組のカムバックも顕著だ。大手を中心として単品メーカーもこのチャンスに乗り遅れまいとの機運が漂う。申し込みは例年以上のハイペースを記録しており、展示規模の拡大は間違いないだろう。新たなスタートを切るF-SYSから目が離せない1年となりそうだ。

新 実行委員長就任! 見逃せない1年に

学校給食界隈に多大な影響力をもつ 田中 延子氏がF-SYS2025実行委員長に就任した。実行委員会メンバーは大手厨房メーカーを中心に再編され、より実質本位な体制となる。「まずはメーカーを揃え、内容を充実させたい」と田中実行委員長のモチベーションも高い。『新生F-SYS』門出の本年、関連メーカー各社の姿勢が問われそうだ。

F-SYS2025 実行委員

(株)AIHO
代表取締役社長 宮崎 真嗣氏

タニコ(株)
代表取締役社長 谷口 秀一氏

(株)中西製作所
代表取締役社長 中西 一真氏

日本調理機(株)
代表取締役社長 齋藤 有史氏

実行委員長
田中 延子氏
(株)オフィス田中 代表取締役
淑徳大学 看護栄養学部 客員教授

コメントカットウや三信化工などの有力メーカーや中西製作所が昨年出展を見送り、今回復活した背景には、田中実行委員長の影響もあるが、F-SYSの給食(学校・病院・福祉)分野の実績と専門性を考慮した結果と考えられる。

大手厨房メーカーが出揃った今年、田中実行委員長は栄養士・調理員を含め、学校・病院・福祉の各分野から専門家を多数招致すべく、多彩な企画を立ち上げ、集客に努力したいとしている。



大手厨房メーカー出揃う

病院・福祉向け給食 希少なPRの場として

医療・福祉向け展示会の中止を受け、F-SYSでは病院・福祉施設の管理栄養士や厨房関係者の来場が増加傾向にある。深刻な課題である慢性的な人手不足に対応した新たなソリューション導入への関心は依然として高い。これに伴い、全国の病院・福祉施設やセントラルキッチン等の省力化を推進する設備・システム導入への意欲は上向き始めている。これを好機と見た厨房機器、とりわけ温冷配膳車や冷凍・冷蔵メーカー各社がF-SYSでのPRの重要性を再認識。展示会場での製品展示や実演は非常に訴求力があり、来場者からは「導入前に展示会を活用する」といった声も多い。今年のF-SYSでは、学校給食だけでなく、病院・福祉施設関係者の来場も大きく伸びる見込みにある。

今年10月のFOOD展は「実質本位」に出展企業の営業活動をサポート まだ間に合います、ぜひ出展をご検討ください！



**社会情勢も追い風
出展企業に死角なし**

フードセーフティジャパン(FSJ)は、異物混入や食中毒の報道がある度に出展・来場者が大きく増加してきた。近年、有害生物やカビなどの微生物を含む異物混入事故が頻発。従来の毛髪や破片の対策に加え、新たな異物検出もクローズアップされ、その対策に注目が集まっている。アイ

環境サービスマスや大日本除虫菊など大手防虫メーカーの出展がその現れ。2社の動向を受け、イカリ消毒が復活出展に向けて動く。そのほか、キーンズ、榎屋、ピーエムティ、コトヒラ工業など、各

社が特長を活かした機器を展示する。いつばう、FSJにとっ

て衛生資材は欠かせない分野。本年は食品衛生法「食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度」の経過措置満了のタイミングが重なることで、すでに多くの問い合わせが寄せられている。10月の開催時には新たな情報を求める食品衛生関係者が集う見込みで、多くの衛生資材メーカーにとっては商機。

ウインセスがポジティブリスト対応グローブを展示するほか、同じく初出展の**中日本商事**は工場向けに幅広い衛生関連商品を提案するなど、出展企業が続々と集まる。

また、需要が増す「洗浄」分野では**エコノス・ジャパン**、**青葉化成**が早々に出展を決めており、例年以上に充実した展示が期待される。



また、需要が増す「洗浄」分野では**エコノス・ジャパン**、**青葉化成**が早々に出展を決めており、例年以上に充実した展示が期待される。



**工場改修・修繕の需要高
冷凍・空調設備・機器が好調**

食品業界では大手メーカーを筆頭に、**工場の修繕・改修の動きが加速**している。こうした状況を踏まえた新たな要素として、「**食品工場エンジニアリング部会**」を組成。味の素**エンジニアリング**、**三和建設**、**大和ハウス工業**、**タカヤ**、**中設エンジニア**など、有力な企業が参画し、日頃から付き合いのある設備メーカーの出展を促す。企画連動型の展示コーナーと併せ、来場者の関心を集めるねらいだ。

また、「**冷凍・空調**」に

商業を見込んだ出展企業のエントリーが相次いでいる。**山科精器**は冷凍食品向けに超音波切断機を提案すべく、約10年ぶりの出展を決めた。ほかにも、**冷却機のダイナテック**、**解凍機のヨシキン**など新たな顔ぶれが続々と出展を決めており、注目度は極めて高い。

「**設備更新**を考えている来場者が多く、**案件に繋がりがやすい**」と好評で、各社に遅れをとるまいと他からも出展申し込みはまだまだ続きそうだ。

また、「**冷凍・空調**」に



ピックアップテーマ

企業誘致・立地
食品工場は国内に堅調な需要がある。地域活性化や雇用創出という側面もあり、**各自治体の企業誘致・立地部署**は、**食品メーカー経営層**の来場も多い本展での効率的なPRを求める。

ロボット・FA
ロボットの利活用事業が多面で進んでいるのも記憶に新しい。食品工場での導入事例も蓄積される今、「**ロボット・FA**」に再びフォーカス。フードファクトリー来場者とのマッチングに期待がかかる。

FOOD-DX 5展横断特別企画

反響大きく、申込好調!!

「DX」という新たな要素を注入 さらなる申込が見込まれる

昨今、食品業界が他業界と比べて大幅な遅れをとっているのが「DX化」だ。本年のFOOD展では、**5展横断企画**として『**FOOD-DX**』を新設し、さらなる展示の充実を図る。本企画の目玉は**出展者に無償提供するパフォーマンスセミナー**。来場者の課題を視覚と聴覚の双方で刺激する。すでに申し込みは20社を超え、食品業界に新規参入し問題点と解決策を探る。昨年からの展示スペースを倍増の**Tebiki**はマニュアル動画作成ツールを。ペーパーレス提案の**カミナシ**、原価管理ツールの**KOSKA**、温度管理システムの**ティアンドデイ**、トレーサビリティシステムの**カンブライト**、

設備保全DXの**M2X**など、多彩な顔ぶれが揃う。本企画に期待を寄せる初出展の企業にも注目したい。SCMサポートシステムを扱う**ブレインパッド**が来場層に魅力を感じ、攻勢をかけるべく大規模スペースでの出展を検討中。材料誤投入を防止する**ステルテック**や給食の基幹システムの**MSystems**も初出展に向けて準備に余念がない。本特別企画『**FOOD-DX**』では、食品業界の生産・経営効率化につながる「**DXツール**」を引き続き募集。新規参入・販路開拓をねらう企業のさらなる申込が見込まれる。



**食品物流関係者に訴求
専門性に強み**

国内唯一となる食品物流の専門展示会である**フードディストリビューション(FD)**。物流業界全体では、2024年問題の影響が根強く残る。食品に絞ると、低温度帯管理やリードタイムの上限といった食品物流ならではの課題が浮いてくる。それらの課題にどう対応するか、本展でも「**食品物流**」をキーワードに出展者が続々と集まる。低温流通をシステムで支える**レイテック**や倉庫や製造加工の管理システムを主力とする**システムベンダー**が早々に継続を決めた。3年ぶりの出展となる**THK**は、工



企画委員長
上智大学 名誉教授 荒木 勉 氏



今年も**食品メーカー**の物流・ロジスティクス部門や**食品卸**、**スーパー**・コンビニの流通関係者といった食品物流に精通した来場者と活発な交流が展開されそうだ。



**惣菜・弁当盛付全工程
ロボット化の集大成**

経済産業省と日本惣菜協会が推進する食品分野の「**革新的ロボット研究開発等基盤構築事業**」が区切りを迎えた。特に惣菜製造分野では、ロボット導入に対する技術的・経済的ハードルが高いとされてきた。本事業では、その高いハードルを企業・団体が支



組織委員長
日本惣菜協会 専務理事 清水 誠三 氏

援し、惣菜製造に実装できるロボットの開発や改良がおこなわれてきた。そして集大成となる昨年、**惣菜盛付ラインの全工程ロボット化**の実装が実現。

分野をトピックとして打ち出し、革新的ロボット事業への参画企業のみならず、**製造プロセスにおける自動化・省人化**に関する機械やシステムも展示対象とする。

惣菜・デリカJAPAN
(SDJ)では、生産性向上や人手不足解消をキーワードに「**惣菜製造自動化**」

さらなるロボットの導入・推進に向け、複数の機械メーカーが出展準備にとりかかる。

お問い合わせ先
総合出展案内や来場実績集等
をご提供いたします。
FOOD展事務局
フードシステムソリューション
フードセーフティジャパン フードファクトリー
フードディストリビューション 惣菜・デリカJAPAN
TEL **03-3503-7661**
E-mail **office@food-exhibition.info**
お問い合わせフォームは
こちら